

適応指導教室による支援について

【青梅市立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、第3学年に在籍している。集団に入ることの不安から、人とコミュニケーションを取ることが苦手な不登校になっている。適応指導教室（ふれあい学級）に通っている。

具体的な取組

- ・担任が本人・保護者と週に1回以上電話で連絡を取っている。その際に本人の悩みや不安などを聞き取り、丁寧に対応している。
- ・定期的に家庭訪問を実施して、本人の所在確認をしている。
- ・放課後登校や別室登校など多様な登校形態を取り入れている。

- ・オンライン授業配信を別室登校の際に実施した。
- ・体育の見学、給食喫食に参加する日が数日あった。



- ・不登校対応加配教員を中心にスクールカウンセラーも含めた週1回相談部会を開催し、生徒の状況や保護者の要望などを情報共有して、課題などを検討している。
- ・市の関係機関と連携し、充実した支援を図っている。

- ・週に1回火曜日に開催する運営委員会にスクールカウンセラーにも入ってもらい、各学年の不登校生徒の状況を共有し、スクールカウンセラーから助言をもらうとともに、運営委員会全体で今後の対応策や支援策を検討している。

成果

- ・適応指導教室（ふれあい学級）に通うようになり、自分の進度に合わせた学習を進めることで、学習の不安を解消しつつある。また、自分の将来を考えるようになり、保護者と本人で進路選択を検討するようになった。

課題

- ・集団に入ることが苦手なので、教室での学習に適應できるかが課題である。また、具体的な進路選択が未定であるので、様々な進路情報を提示する必要がある。